

平成30年2月9日

上場会社名 永大産業株式会社
 コード番号 7822 URL <http://www.eidai.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 大道 正人
 (氏名) 森下 昌樹

TEL 06-6684-3020

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-----|-------|------|-------|------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第3四半期 | 50,167 | 1.5 | 1,739 | △6.0 | 1,946 | △1.0 | 1,382 | △11.7 |
| 29年3月期第3四半期 | 49,418 | 8.5 | 1,849 | 33.1 | 1,966 | 28.8 | 1,565 | 57.0 |

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 2,038百万円 (24.5%) 29年3月期第3四半期 1,636百万円 (73.2%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第3四半期 | 30.53 | — |
| 29年3月期第3四半期 | 34.45 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第3四半期 | 73,048 | 49,485 | 67.7 | 1,092.52 |
| 29年3月期 | 70,799 | 48,217 | 68.1 | 1,064.51 |

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 49,485百万円 29年3月期 48,217百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | — | 8.50 | — | 8.50 | 17.00 |
| 30年3月期 | — | 8.50 | — | | |
| 30年3月期(予想) | | | | 8.50 | 17.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年3月期 中間配当金及び期末配当金の内訳 普通配当7円50銭 記念配当1円00銭(当社70周年記念配当)

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|-------|-----|-------|-----|---------------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 67,000 | 0.7 | 2,700 | 9.4 | 2,850 | 8.1 | 2,000 | △14.3 | 44.15 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 30年3月期3Q | 46,783,800 株 | 29年3月期 | 46,783,800 株 |
| 30年3月期3Q | 1,488,414 株 | 29年3月期 | 1,487,969 株 |
| 30年3月期3Q | 45,295,501 株 | 29年3月期3Q | 45,430,999 株 |

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | | |
|----|------------------------------------|---|
| 1. | 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| | (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| | (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| | (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. | 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| | (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| | (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| | 四半期連結損益計算書 | |
| | 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| | 四半期連結包括利益計算書 | |
| | 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| | (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| | (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| | (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| | (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 8 |
| | (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種政策の効果もあり、企業収益や雇用環境に改善が見られ、緩やかな回復基調が続いているものの、東アジアや中東における地政学的リスクの高まりによる景気の下振れ懸念から、先行きには不透明感が残りました。

住宅業界におきましては、低水準で推移する住宅ローン金利や各種住宅取得支援策が下支えし、新設住宅着工戸数は底堅い動きとなりました。

このような情勢のもと、当社グループは中長期的な経営戦略に則り、新製品開発やコスト低減をさらに推進し、既存市場におけるシェアを拡大するとともに、保育園などの園舎施設への販売活動を強化するなど、非住宅市場の開拓に取り組みました。また、海外事業におきましては、平成29年9月にキッチン、収納及び室内ドアの製造・販売を担う当社グループ100%出資の子会社PT. Eidai Industries Indonesia (インドネシア国ブカシ県) を設立し、平成30年上期における操業に向けて準備を進めております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高50,167百万円(前年同四半期比1.5%増)、営業利益1,739百万円(同6.0%減)、経常利益1,946百万円(同1.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,382百万円(同11.7%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(住宅資材事業)

建材分野では、「銘樹・ヌーディーセレクション」をリニューアルするなど、引き続き、銘樹ブランドの強化に取り組みました。一方、室内階段におきましては、正寸プレカットの拡販に努めた結果、受注数をさらに伸ばすことができました。

内装システム分野では、保育園などの園舎施設に関して、これまで蓄積してきた情報をもとに各製品の標準化を図りつつ、自由度が求められる収納家具には全品特注生産で対応するなど、幅広い提案を可能にしました。また、平成29年11月には好調な受注を背景に窓枠正寸プレカットの生産ラインを大阪事業所に増設し、生産体制の強化を図りました。

住設分野では、当社の強みであるステンレス加工技術を活かした個別ユーザーへのオリジナルキッチンの提案や賃貸市場へのコンパクトキッチンの販売などに注力しました。さらに、「システムキッチン ハイル」や「洗面化粧台 ティレⅢ」に室内ドアの「トラディショナルモード」とカラーコーディネートが可能な扉を追加するなど、品揃えを強化しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は45,089百万円(前年同四半期比1.2%増)、セグメント利益は2,963百万円(同2.5%増)となりました。

(木質ボード事業)

木質ボード事業では、文教施設や医療施設を始めとする非住宅市場に対して、空気環境に配慮した素材パーティクルボードや化粧パーティクルボードの提案を強化するとともに、旺盛な置床市場の需要に対して積極的な対応を行った結果、売上高は前年同期比で増加しました。しかしながら、接着剤などの諸資材が高騰したことを受けて販売価格への転嫁を進めましたが、コスト上昇を吸収するには至らず、減益を余儀なくされました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,938百万円(前年同四半期比4.6%増)、セグメント利益は51百万円(同79.1%減)となりました。

(その他事業)

当社グループは、上記事業のほか、不動産有効活用事業、太陽光発電事業を推進しております。

なお、アスベスト処理工事や処理薬剤の販売などを担う環境事業は、平成29年9月末をもちまして新規対応を終了しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は139百万円(前年同四半期比13.5%減)、セグメント利益は63百万円(同2.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,248百万円増加し、73,048百万円となりました。主な要因は、売上債権及び投資有価証券が増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ980百万円増加し、23,562百万円となりました。主な要因は、仕入債務が増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,268百万円増加し、49,485百万円となりました。主な要因は、配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと及びその他有価証券評価差額金が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の景気見通しにつきましては、東アジアや中東における地政学的リスクの高まりや各国の政策動向など、企業収益を下押しするリスクが残されてはいるものの、引き続き緩やかな回復基調で推移すると考えております。

なお、平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表しました計画から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 12,176 | 11,512 |
| 受取手形及び売掛金 | 19,653 | 18,862 |
| 電子記録債権 | 3,528 | 5,869 |
| 有価証券 | 1,000 | 1,000 |
| 製品 | 4,727 | 4,586 |
| 仕掛品 | 2,344 | 2,245 |
| 原材料及び貯蔵品 | 4,217 | 4,248 |
| 繰延税金資産 | 287 | 289 |
| 未収入金 | 1,547 | 1,526 |
| その他 | 177 | 303 |
| 貸倒引当金 | △2 | △2 |
| 流動資産合計 | 49,658 | 50,443 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 4,936 | 4,979 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,864 | 2,971 |
| 土地 | 4,034 | 4,034 |
| 建設仮勘定 | 102 | 300 |
| その他（純額） | 275 | 265 |
| 有形固定資産合計 | 12,213 | 12,551 |
| 無形固定資産 | 527 | 560 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 7,273 | 8,364 |
| 出資金 | 7 | 7 |
| 長期前払費用 | 445 | 380 |
| 繰延税金資産 | 109 | 109 |
| その他 | 577 | 664 |
| 貸倒引当金 | △13 | △33 |
| 投資その他の資産合計 | 8,399 | 9,492 |
| 固定資産合計 | 21,141 | 22,604 |
| 資産合計 | 70,799 | 73,048 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 13,145 | 13,624 |
| 電子記録債務 | 160 | 185 |
| 未払金 | 4,533 | 4,762 |
| 未払費用 | 679 | 798 |
| 未払法人税等 | 558 | 279 |
| 未払消費税等 | 181 | 315 |
| 賞与引当金 | 548 | 200 |
| その他 | 50 | 318 |
| 流動負債合計 | 19,856 | 20,484 |
| 固定負債 | | |
| 繰延税金負債 | 194 | 498 |
| 退職給付に係る負債 | 2,130 | 2,203 |
| 環境対策引当金 | 42 | 41 |
| 負ののれん | 251 | 229 |
| 長期預り保証金 | 92 | 92 |
| その他 | 13 | 11 |
| 固定負債合計 | 2,725 | 3,077 |
| 負債合計 | 22,582 | 23,562 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,285 | 3,285 |
| 資本剰余金 | 1,370 | 1,370 |
| 利益剰余金 | 41,890 | 42,502 |
| 自己株式 | △441 | △441 |
| 株主資本合計 | 46,104 | 46,716 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,882 | 2,568 |
| 為替換算調整勘定 | 400 | 341 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △169 | △141 |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,113 | 2,769 |
| 純資産合計 | 48,217 | 49,485 |
| 負債純資産合計 | 70,799 | 73,048 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 49,418 | 50,167 |
| 売上原価 | 36,287 | 36,968 |
| 売上総利益 | 13,131 | 13,199 |
| 販売費及び一般管理費 | 11,281 | 11,459 |
| 営業利益 | 1,849 | 1,739 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 19 | 17 |
| 受取配当金 | 85 | 132 |
| 仕入割引 | 25 | 22 |
| 為替差益 | 21 | 35 |
| 負ののれん償却額 | 21 | 21 |
| 持分法による投資利益 | 59 | 73 |
| 雑収入 | 64 | 62 |
| 営業外収益合計 | 297 | 364 |
| 営業外費用 | | |
| 売上割引 | 111 | 105 |
| 雑損失 | 69 | 51 |
| 営業外費用合計 | 180 | 156 |
| 経常利益 | 1,966 | 1,946 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 2 | 0 |
| 投資有価証券売却益 | 233 | — |
| 特別利益合計 | 235 | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 31 | 5 |
| 特別損失合計 | 31 | 5 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,170 | 1,941 |
| 法人税等 | 605 | 559 |
| 四半期純利益 | 1,565 | 1,382 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,565 | 1,382 |

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 1,565 | 1,382 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 344 | 686 |
| 為替換算調整勘定 | △300 | △58 |
| 退職給付に係る調整額 | 27 | 27 |
| その他の包括利益合計 | 71 | 655 |
| 四半期包括利益 | 1,636 | 2,038 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,636 | 2,038 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注1) | 合計 | 調整額 (注2) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) |
|-------------------|---------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 住宅資材 | 木質ボード | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 44,538 | 4,719 | 49,257 | 161 | 49,418 | — | 49,418 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 0 | 1,011 | 1,012 | — | 1,012 | △1,012 | — |
| 計 | 44,538 | 5,730 | 50,269 | 161 | 50,430 | △1,012 | 49,418 |
| セグメント利益 | 2,891 | 246 | 3,138 | 65 | 3,203 | △1,353 | 1,849 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業、環境事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注1) | 合計 | 調整額 (注2) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注3) |
|-------------------|---------|-------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 住宅資材 | 木質ボード | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 45,089 | 4,938 | 50,028 | 139 | 50,167 | — | 50,167 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 0 | 1,033 | 1,034 | — | 1,034 | △1,034 | — |
| 計 | 45,089 | 5,972 | 51,062 | 139 | 51,202 | △1,034 | 50,167 |
| セグメント利益 | 2,963 | 51 | 3,014 | 63 | 3,078 | △1,339 | 1,739 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業、環境事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。